



連谷地区新年祝賀会

謹んで新年のお慶びを
申し上げます



正月三日、好例となった連谷地区
新年祝賀会が公民館連谷分館・同コ
ミュニティ委員会主催で行われた。
来賓には穂積市長、峰野県議、森
市議のご来臨を賜り、新年の寿ぎを
祝し、地域課題、将来展望を語り合
い、大変有意義な祝賀会であった。
主催者挨拶
村雲新城市中央公民館連谷分館長
皆様、あけましておめでとござい
ます。日頃は公民館活動にご理解、

ご協力を頂き、大変ありがたく思っ
ております。多々あります行事等も
いろいろ見直しを行いつつ、少しで
も連谷地域の活性を視野に取り組
んでいきたいと思っておりますの
でよろしくお願い致します。

来賓祝辞(概要)

穂積市長 一月三日の正月の内に
仕事始めの前日に本当の仕事初
めとなりました。昨年、ここで挨拶
した時には三月十一日の大震災が
よもや起こるとは誰もが夢にも思
わなかった訳ですが、当地で発生し
た「鳥インフルエンザ」の終息宣言
の翌日、東日本大震災があり、それ
以来一時も災害対応が頭から離れ
ない、そんな一年でした。本市でも
台風十二号、十五号と大きな被害が
あり、四谷の千枚田の道も台風被害
で傷んでしまいました。(中略)今年
はこれらを踏まえ防災、災害対策、
それから新エネルギーとして小水
力発電とか、新しい地域に根ざした
地域資源の活用に全力を尽くして
いきたいと思っています。新年度か
ら予算審議のうえ、市内全域で小水
力利用の歴史を掘り起こし、大学と

の協力を得て地域資源の特に小さ
な水力発電がどれだけできるかし
っかり研究して新城なりの取り組
みをスタートしていきたいと思っ
ています。その中でも地域も協力
いただけなければなりませんので
よろしくお願い申し上げます。

四谷の千枚田の保存では昨年も
サミットに皆さんも行っていただ
きました。鳳来でサミットを開いた
のが平成十七年ですが、今、新城市
というと対外的にほとんどが千枚
田の写真が使われております。新
城市を代表する顔になっていただ
いたのも千枚田サミット以前から地
域の皆さんで「保存会」をつくり、
そしていろいろと地道な取り組み
をされてこられた結果であると思
います。この地に立つたびに皆さん
の地域を愛する気持ち、守る気持
ちが結局は政治を動かし、世の中を動
かしていく原動力になっているこ
とをいつも痛感して頭が下がる思
いでいますとともに我々も一生懸
命、皆さんと一緒に手を組んで進ん
でいかなければと思います。連谷地
区の皆さんが地域のますますの発
展すること、そして、ご家族、ご家
庭の発展を心からお祈り申し上げ
ます。

峰野県議 毎年、この連谷地区の新
年会にお招きいただきことを楽し

みにしております。今、二期目にな
りました。私自身の県議会の中で
役職がいろいろ回ってくるよう
になりました。現在は産業労働委員
会の委員長をやらせていただい
ております。只今、市長さんのお話
にありました小水力発電やバイオ
マスなど自然(資源)エネルギーの関わり
も私が担当するところです。

先だって、アメリカを視察してき
ました。また、世界各国が地域資源
を生かしたエコエネルギーの開発、
実用化に取り組んでおります。

もう一点は、若い人に住んでい
ただけのような地域づくりを、そう
いう方向で地域づくりをしていき
たいという気持ちで、いろいろ皆
さんからご提案を頂き「連谷とい
う地域」をモデルケースとして考
えていきたいと思っております。

森 市議

暮れに、「坂の上の雲」というド
ラマを最後まで見てしまいました。
(以下、内容の説明を頂きました。)
本日、お集まりの皆さまの益々
の益々、ご多幸を祈念しまして 乾杯

参加者	人数
集落	4名
大代	4名
大林	16名
身平橋	2名
与良木	3名
方瀬	2名
真菰	3名
松下	34名
合計	

保存会設立十五周年

平成九年一月十二日、「耕作者相互の連絡連携を密にし、千枚田の保存活動を通じて労働力の確保を図り、千枚田における農業振興及び地域の活性化に寄与する」ことを目的に鞍掛山麓千枚田保存会が発足。

以来、十五年。作業効率、生産性に欠ける単なる棚田であったものを保存会が柱に耕作者、地域・行政が一丸となり盛り上げた結果、他に比類のない地域の活性、新城市の誇り、全国、世界に輝きを与えるまでに至った。今後、一年間は保存会設立十五周年を記念して「四谷の千枚田」を地域の宝とした各種行事を行うっていくこととなります。

施設整備

十二月十五日、杉皮葺きの阿屋(二軒)の屋根葺き替え工事を行った。老朽激しく、屋根石もいつ落ちるかの状態まので傷み、頭痛の種であったが市・県からの材料支給で改修することができた。改修工事は高橋孝行、今泉雅男、小山舜二の出役で行った。



連谷お助け隊二題

サンタのおじさん

クリスマススイブの夜、連谷お助け隊有志林義明、原田佳治、小山孝夫、高橋賀津男、小山泰徳はサンタクロースに扮し、連谷小学校児童(全校生徒六名)の家庭を訪れプレゼント。子供たちに大きな夢を与えた。この、連谷お助け隊の行為は好意、好感に値する素晴らしい活動で殺伐とした一年の締めくくりにとんでもない光明を与えてくれたもんだと感激した。

内緒だか、かれこれ十年前、(舜)も近所の家でサンタクロースを頼まれプレゼントを届けたことがある。その時、子供たちに今日は奥さんのサンタズロースさんと一緒に訪れる予定であったが、あいにくズロースさんは風邪をひいて来れなくなつたと説明、子供たちを本気にさせ慌てふためいたことがある。

伊奈街道 蔭栗毛

正月二日の朝、玖老勢の追分で「細尾の孝ぼう」と「坂の治ちや」の二人が都に向かってとぼとぼ歩いていて。その、約1kmほど先に「真当の義ちや、法元さまの剛兄と大代の賀ちやがリックを背負い颯爽と歩いている。この、勢いなら都落ちではなさそうだと判断した。帰り道、大海の交差点のガードレールにへ

連谷



旧年中は大変お世話になりました。
今年もよろしくお願ひします。
平成二十四年 元旦



四谷の千枚田を宝にした地域起こしに、やつと二十年。その、一環として地域の情報紙「四谷の千枚田だより」も昨年十二月には100号(八年四ヶ月)を発信。この間、「サミット開催」「COP10関連」、「田園自然再生コンクール農林水産大臣賞受賞」、「あいち森と緑づくり事業」の採択を得た生活道路の確保(住環境整備)が校区民参加により各所で行われ、地域の絆を生み出した。等々。数限りのない波及効果を得た。鑑みて、「足を引く張るより、手を取り合う」ほうが先(地域活性・共生)に進みやすいではないかと常々思つて止まない。私たちは上流社会に暮らし、ゆとりある階級であることに自信を持って個々各々の持ち分の力量を集結しあい「住みよい連谷、むらづくり」に尽くす責務があります。

「千枚田の保全」、「四谷の千枚田だより」も、もう少し頑張るつもりです。みなさんの暖かいご支援、ご鞭撻をお願いして新年の挨拶とします。七十一才辰(舜)

ぱりついている二人を見かけ思わず「どうしただん、さつき追分けで見た時、乗っていかんかん!と声をかけようか迷つただが」と言つたところ、「乗せてもらえりやあ楽だつただがのん」と、今さら後戻りできないような辛い表情で、お互いに冗談を飛ばした。

後から聞いた話だと、早朝五時半出発、目的地のコロナワールドには午後四時(行程四十km)に到着。(その間、見ていないが、あっちこちで脱線、水分補給をしてやつと辿り着いたものと思われる。)そして五人は

完全歩破の祝杯を挙げ風呂に入り、帰路は飯田線に乗り「やつぱり、電車は楽だのん」と言つたとか、言わなかつたとか。無事帰つたそうので、まずは、やれやれ。

消防団第三分団で連帯意識を鍛え、連谷魂を継承する「連谷お助け隊」の行動、活動に地域の未来を感じる一コマであった。ジャンジャン

行 平成二十四年一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二